

審議会等の会議結果報告書

課所名	生涯学習課 博物館
-----	-----------

会議名	令和2年度 第1回諏訪市博物館協議会
開催日時	令和3年3月19日(金) 午後1時30分～3時00分
出席者	委員 樋口公男委員長 平林富美子副委員長 秋山大一委員 北島和孝委員 五味一郎委員 白鳥貴文委員 宮坂早苗委員 欠席 若林和仁委員 原みさこ委員 小林健治委員 事務局 小島教育長 後藤次長 小林課長 小口館長 児玉学芸員 嶋田学芸員 オブザーバー 岩波教育委員
資料	令和2年度事業報告・令和3年度事業予定・館外収蔵施設移転準備事業の進捗状況について・博物館資料収集・収蔵・活用方針(暫定版)について 資料 諏訪地域日本遺産活用促進ウォーキングガイド

報告・協議事項及び会議結果（要旨）

■報告事項：令和2年度事業報告・令和3年度事業予定・館外収蔵施設移転準備事業の進捗状況について

質問・意見 なし

■協議事項：博物館資料収集・収蔵・活用方針（暫定版）について（資料に基づき報告）

→博物館資料収集・収蔵・活用方針（暫定版）の〈考え方〉についてご意見いただきたい。

- ・諏訪には様々な歴史の分野があり全てを扱うのは難しい。総合博物館ではあるがもう少し専門的でも良くはないか。専門以外の資料は民間で保管する、というように住み分けをしたほうが良い。
- ・〈考え方〉の「諏訪信仰」というテーマは大変難しい。「諏訪信仰」はこれだ、という正解はない。
- ・民間団体などが地域資料を収蔵するのはとても大切なことである。収蔵問題は、皆で知恵を出し合って解決しなければならない。

- ・博物館以外での保管場所に関連して、校内の古墳の出土品が学校にもあると学習に役立つと思われた。ほかに機織り機など、子どもが触れられる民具などがあると良い。

- ・家で保存、地域で保存、という住み分けが大事なので、その明確な基準が欲しい。

- ・小中学生が日常で、地域資料と身近に触れ合い使える機会が増えると良い。そのためには、市民が納得できる、保管か活用かの選別方法が必要になる。

- ・他市でも以前、収蔵庫があふれる状況があったが今は解消されている。受入れの基準をきちんと作ることが大事。どんな所でどういう形で収蔵するか、多くの市民の声を聞くことが大事である。

- ・人々がどう作ってどのように伝えてきたか。そこが地域の歴史継承のポイントになる。モノよりも人の歴史としてどう伝えていくかがとても大事である。

- ・諏訪市には製糸、精密業もあった。工業の流れを示す資料を遺すことも大事である。

- ・地域と学校が協力して、活用できる資料を学校で保管することは可能か。

→学校による、という答えになる。子どもたちに伝えたい、触れてもらいたい地域資料や機能が学校にあっても良いと考える。

- ・活用できる資料は、地域や学校で使うほうが良い。博物館は、地域学習や歴史講座などで、使われていた時代や使い方についてレクチャーをしてもらいたい。

- ・古いモノを使ってみたい人は多い。広く発信して受け入れたい人に譲渡しても良いのではないかな。

- ・資料保管にスタートはあってもゴールは無い。永久貸与も選択肢の一つではある。

■その他 なし